

この先生にズームイン

コミュニケーションツールとしても◎

中学、高校と卓球部で、自宅には4分の1サイズの卓球台がある。かつてはよく息子たちと練習したが、最近は忙しすぎてプレーする時間がないと残念がっている。また、不登校の子たちと一緒に楽しんだこともあったとか。「卓球は相手とのやり取りだから、コミュニケーションを取るのにいいんです」



子どもの心をつかむ相棒

年季の入ったサルのパペット“ウッキー”は「息子が中学生の時に買ってきたものだったかな」。虐待を受けた子などが特に関心を示すといい、自分の心を代弁してくれる自己表現のツールとして世界各国の子どもの心を開きほぐしてきた。



庭いじりが好き

息子の高校進学を機に13年前に家を建てて以来、自宅の庭に藤棚を作ったり木を植えたりして四季折々の変化を楽しんでいる。「4月は桜、5月、6月は藤の花がとってもきれいですよ」。電動草刈り機で一気に雑草を刈り、きれいにするのも富永先生の役割だという。



先生に質問!

A

安全と安心の確保です。そして、保護者と連携し、24時間、見守る必要があります。学校が再開され、少しずつ机に向かっていく中で、一見大丈夫そうに感じられる子ども、家で別の顔を見せていることがありますから。

Q

災害などで心の傷を負った子どもたちに大人がまずするべきことは。

安全と安心の確保です。そして、保護者と連携し、24時間、見守る必要があります。学校が再開され、少しずつ机に向かっていく中で、一見大丈夫そうに感じられる子ども、家で別の顔を見せていることがありますから。

災害などで心の傷を負った子どもたちに大人がまずするべきことは。

A

眠れない子が多い小学校低学年のクラスでは、担任の先生にくまモンの着ぐるみ姿で「夜、眠れないんだ」と言ってもらいます。「どうやったら眠れるか、みんなで教えてあげて」と呼び掛けると、どんどん手を挙げて答えてくれます。このように子どもが安心できる場で、怖かった経験に触れることが肝要です。こうした授業を熊本県内の各校で展開するために指導案が作られたのですが、中心となって作成した熊本県立教育センターの二人は、兵教大大学院の修了生です。他にも、心のケアが求められるさまざまな現場で修了生が活躍しており、頼もしい限りです。

Q

どのような内容ですか。

熊本へは今も頻繁に出向いており、若手の支援を通じて開発した防災教育と心のケアをセットにした授業を小学校などで行っています。

A

阪神・淡路大震災での支援活動をきっかけに、被災地の子どもの心のサポート事業を展開してきました。若手では東日本大震災の年から毎年、全公立校の児童生徒約14万人の心と体の健康観察をしています。8年間継続する予定のプロジェクトで、世界に例のない規模です。一方、熊本へは今も頻繁に出向いており、若手の支援を通じて開発した防災教育と心のケアをセットにした授業を小学校などで行っています。

Q

若手県や熊本県の教育委員会のスパーバイザーとしても活動されています。

お酒が大好き

種類にこだわりはなく、「何でも飲む派」。少し前までは毎日飲んでいたので、「夏にオリンピックストレスで熱が出たので、しばらくお酒をやめました」とのこと。ちなみにリオ五輪で夢になったのは、やはり卓球。「ずっと見ていました。感動しましたね」



学校現場で活躍

小学校で授業をする際などに持って行くくまモンの着ぐるみ。「担任の先生にくまモン姿を見るだけで、子どもたちはゲラゲラ笑って大喜びするんですよ」。手描きのイラストは、ストレスマネジメントの授業などで感情を説明する際に活用している。



とみながよしき 富永良喜 教授 臨床心理学コース

昭和58(1983)年九州大学大学院教育学研究科博士課程を単位取得退学、平成25(2013)年に博士(心理学)取得。産業医科大学産婦人科助手を経て、59(1984)年に兵教大助手、同附属障害児教育実践センター助教、同附属発達心理臨床研究センター教授などを歴任し現職。臨床心理学、トラウマ心理学を専門とし、特に自然災害や事故などで傷ついた子どもたちへの心理的支援に関する研究に注力し、国内外の被災地などで支援活動を展開している。授業は「臨床心理学特論」(修士課程)等を担当。